

今月のトピックス

- Ⅰ 手足口病が流行のピークを過ぎました。
- Ⅰ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。

全数把握の対象

【8 月期に報告された全数把握疾患】

|                    |      |                        |     |
|--------------------|------|------------------------|-----|
| 細菌性赤痢              | 1 件  | 劇症型溶血性レンサ球菌感染症         | 2 件 |
| 腸管出血性大腸菌感染症        | 14 件 | 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む) | 4 件 |
| デング熱               | 3 件  | ジアルジア症                 | 1 件 |
| レジオネラ症             | 1 件  | 侵襲性インフルエンザ菌感染症         | 1 件 |
| アメーバ赤痢             | 4 件  | 侵襲性肺炎球菌感染症             | 6 件 |
| ウイルス性肝炎            | 1 件  | 梅毒                     | 4 件 |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 | 9 件  | 破傷風                    | 1 件 |
| 急性脳炎               | 1 件  | 風しん                    | 1 件 |

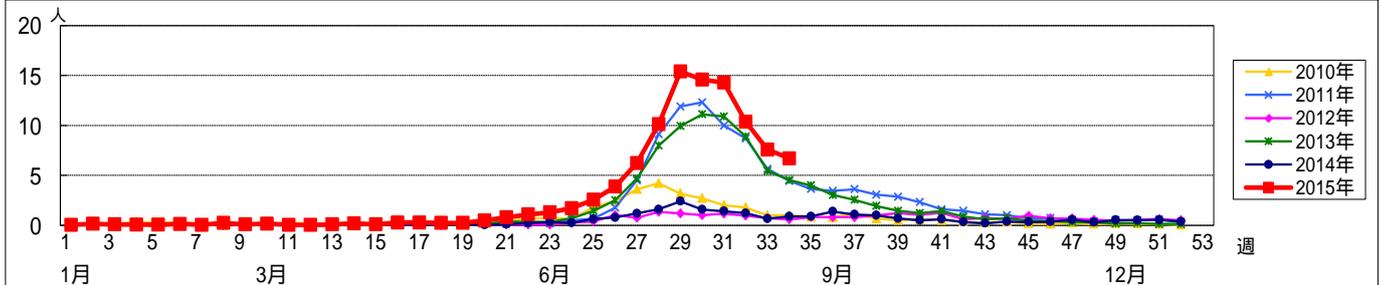
- 1 細菌性赤痢: *Shigella sonnei*(D 群)の報告が 1 件あり、渡航先(ベトナム(ハノイまたはホーチミン))での感染が推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症: 14 件の報告がありました。うち、3 名は同一焼肉店で喫食していたことが判明しました。調査したところ、従業員 1 名から O157 が検出されました。焼肉をするときには、生肉を扱う時はトングを、焼いた肉を扱うときは箸を使うなど、きちんと使い分け、十分に加熱(中心部まで 75 で 1 分間以上加熱)することが大切です。また、家族内発生事例が 2 件ありました。2 次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。
- 3 デング熱: 3 件の報告があり、すべて海外感染例(インド(デリーまたはバンガロール)、バングラデシュ(ダッカ)、スリランカ)です。
- 4 レジオネラ症: 肺炎型 1 件の報告がありましたが、明確な感染経路等は不明です。
- 5 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 4 件の報告がありました。2 件は国内での性的接触による感染で、もう 2 件は経口感染(1 件は国内、もう 1 件は感染地域不明)でした。
- 6 ウイルス性肝炎: 1 件のサイトメガロウイルスによる肝炎の報告がありました。
- 7 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 9 件の報告がありましたが、院内集団感染等はありませんでした。
- 8 急性脳炎: 1 件の幼児の報告がありました。病原体検索中です。
- 9 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 2 件の報告(幼児及び 60 歳代)がありました。
- 10 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): AIDS 2 件、無症状病原体保有者 1 件、その他 1 件の報告がありました。うち 2 件は国内での感染(同性間および異性間性的接触)で、もう 1 件がナイジェリアでの医療機関での感染、残るもう 1 件が感染地域不明(同性間性的接触)でした。
- 11 ジアルジア症: 1 件の報告があり、国内での性的接触(経口・異性間)による感染が推定されています。
- 12 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 1 件の 80 歳代の報告がありました。
- 13 侵襲性肺炎球菌感染症: 6 件(成人例 5 件、幼児例 1 件)の報告がありました。幼児では予防接種歴が 2 回ありましたが、成人例ではすべて予防接種歴が確認できませんでした。
- 14 梅毒: 早期顕症梅毒 期 3 件(20 歳代女性 2 件、40 歳代女性 1 件)、無症候期 1 件(20 歳代男性)の報告がありました。感染経路では、国内での異性間性的接触 2 件、感染地域不明で異性間性的接触 1 件、感染地域不明で性的接触(詳細不明)1 件でした。
- 15 破傷風: 70 歳代の報告が 1 件ありました。感染経路不明でした。
- 16 風しん: 40 歳代男性の検査診断例が 1 件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。[先天性風しん症候群](#)予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。横浜市では、妊娠を希望されている女性(妊娠中は接種できません)、妊娠を希望されている女性のパートナー(婚姻関係は問いません)、妊婦のパートナー(婚姻関係は問いません)、を対象に風し

んの予防接種と抗体検査を実施しています。詳しくは[横浜市保健所ホームページ](#)をご参照ください。

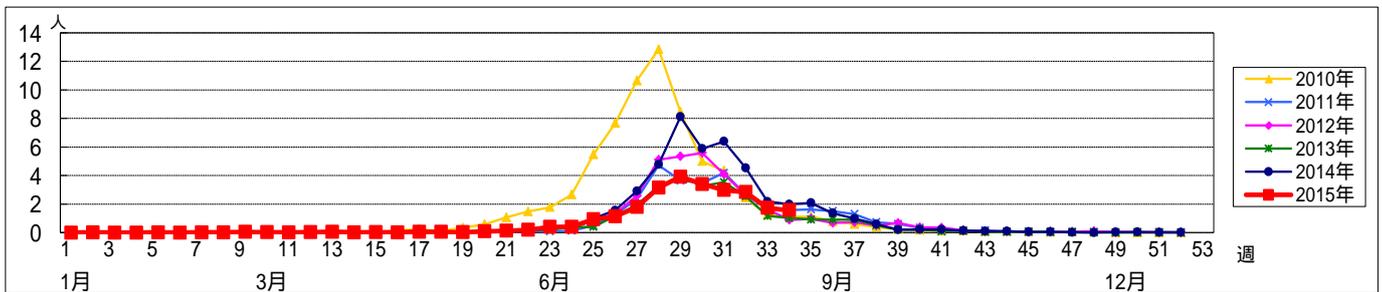
## 定点把握の対象

| 平成 27 年 週 - 月日対照表 |                    |
|-------------------|--------------------|
| 第 31 週            | 7 月 27 日 ~ 8 月 2 日 |
| 第 32 週            | 8 月 3 日 ~ 9 日      |
| 第 33 週            | 8 月 10 日 ~ 16 日    |
| 第 34 週            | 8 月 17 日 ~ 23 日    |

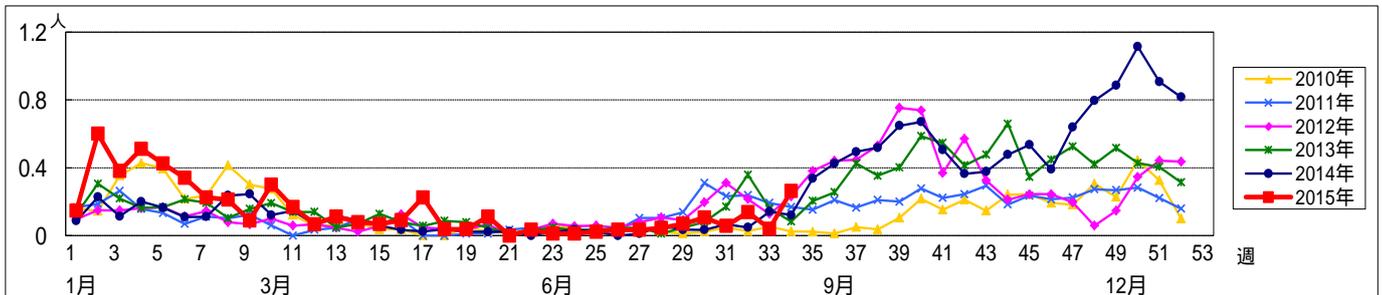
- 1 **手足口病**:今シーズンは過去 10 年間で最大の流行となりましたが、第 34 週は市全体で定点あたり 6.71 と低下傾向です。市内の患者からは、コクサッキーウイルス A16(CA16)とコクサッキーウイルス A6(CA6)が検出されています。CA6 による手足口病では、かなり大きな水疱が四肢末端に限局せず広範囲に認められ、罹患 1~2 か月後に爪甲が脱落する症例も報告されています。



- 2 **ヘルパンギーナ**:第 34 週は市全体で定点あたり 1.57 と低下傾向です。



- 3 **RS ウイルス感染症**:第 34 週は市全体で定点あたり 0.26 と、まだ報告は少ないものの、例年これから徐々に増加する疾患です。



- 4 **性感染症**:7 月は、性器クラミジア感染症は男性が 32 件、女性が 31 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 6 件、女性が 8 件です。尖圭コンジローマは男性 7 件、女性が 4 件でした。淋菌感染症は男性が 27 件、女性が 1 件でした。
- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第 31 週 1.00、第 32 週 1.00、第 33 週 1.25、第 34 週 1.25 と、継続して報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**:7 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 5 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 5 件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>